



昭和基地とオーロラ。1957年に南極の東オングル島に昭和基地を開設



移動だけではなく除雪にも活躍する雪上車



冬は船も飛行機も近づけない



観測にかかわる施設だけでなく発電施設などもある

ます。それは、「もし南極の水が融けると、約60メートル海面が上昇する」という内容でした。改めて子どものころに興味を持った南極にチャレンジしたいと思い、南極地域観測隊の医療隊員に応募。2度目の応募で採用が決まりました。

出発前は、昭和基地には歯科医がないため、歯科研修を受けて抜歯やかぶせもの再接着法を学んだり、同じく専門外である眼科検査機器の取り扱い方法を学んだりしたそうです。また、重機も取り扱えるよう、運転技能講習も受けました。さまざまな準備を整え、いよいよ出発です。

南極から届いたメール

南極での仕事や暮らしは一体どういうものなのか、想像もつきません。いろいろ質問したいとお願いしたところ、何と小田さんが南極から電子メールで返事を送ってくれました。地球の反対側から届いたばかりの南極での生活を、皆さんにご紹介します。

Q 昭和基地でどのような仕事をしていますか？

小田 医療隊員としては、隊員のけがの処置をしたり、歯の詰めものが

る日は、島内散歩をしたり、隣の島に遠足に行ったりします。天気の良い日はDVDを観たり、基地内のジムで身体を動かしたりしています。

Q 昭和基地でのお正月のエピソードがあれば教えてください。

小田 2024年1月1日は、南極観測船「しらせ」に戻って過ごしました。正月の時期の南極は太陽が沈まない白夜なので、夜中も明るいのです。しらせ船内で、海上自衛隊員が作ってくれた除夜の鐘をついたり、おみくじをひいたり、おせちをいただいたりしてお正月気分を味わいました。

神栖市の皆さんと子どもたちへ

小田さんは、今年の2月下旬に帰国予定です。帰国したら一番楽しみにしているのは、もちろん家族との再会。3人のお子さんの成長を、しっかり感じ取りたいと思っています。

仕事については、再び地域医療に従事することとなります。「地域を広い視野で見ながら、仲間と共に、自らの足で地域のために動いていきたい」と意欲的です。最後に神栖市の皆さんへのメッセージをいただきました。「南極でも神栖でも、病気・けが

取れたときに再接着をしたりしています。もし、昭和基地の中で対応しきれないような大きな病気になって、冬の期間は船も飛行機も近づけず搬送できません。また、夏の期間に医療機関へ搬送できたとしても、1週間以上かかります。そのため、何より大切なのが病気の予防。3カ月に1度健康診断を行ない、その結果をもとに健康指導をすることで、隊員が大きな病気にならないよう予防しています。

ただ、医療隊員としての仕事以上に、昭和基地を維持管理する仕事が多くを占めています。主にブリザード(猛烈な吹雪後の除雪や、生活飲料水を確保するため水槽に雪を入れる作業、冰山やクラック(裂け目)を避けて海水でつながった南極大陸に行くルートを作る支援などです。また、この記事を書いた皆さんが読んでいるところ(2025年1月)には、おそらく私は昭和基地から約1000キロ離れたドームふじ観測拠点II(標高約3810メートル)にいるでしょう。約3カ月間、ドーム隊メンバーの健康管理をします。



は予防が一番大切ですが、定期健康診断を受けましょう」

そして、神栖市の子どもたち

に伝えたいことも聞いています。「昭和基地での共同生活で大切だと思ったのは、いろいろなことに興味を持つことと人への思いやりです。皆さんもどんどん興味を広げて、楽しんでください。そして興味を持ったことに対して、調べて知識・技術を深めていってください。また、家族と友人を大切に、周囲の人をよく見て、人の気持ちを考え、行動することが自分自身の成長につながると思います」

一冊の図鑑との出会いから始まった、小田さんと南極の素敵な物語。今年皆さんにはどんな出会いが待っているのでしょうか。お正月に、新しいチャレンジの計画を立ててみませんか？



昭和基地の仲間と小田さん(前列左から2番目)



①



②



③

①アザラシの親子 ②南極観測船「しらせ」で除夜の鐘をつく小田さん ③白夜では太陽が地平線に沈まない(写真は1時間ごとに撮影した太陽)

Q 南極の生活で苦労したことは何ですか？

小田 苦労したのは、極寒・強風・ブリザードです。氷点下35度まで冷え込んだ日は、息をするたびに身体の中から冷え込んでいきます。指先や鼻や頬がじんじんと痛くなり、作業を中断して温かい屋内に逃げ込まなければならず、作業が思うように進みません。また、急に風が強くなると、少し前まで2キロ先の島が見えていたのに、30分もしないうちに吹雪いて100メートル先も見えなくなると恐怖を感じます。ブリザードの後は高さ5メートル近くのドリフト(雪の吹き溜まり)ができ、建物などの隙間という隙間に雪が詰まって除雪するのが大変です。

Q 南極の生活で、感動したことや楽しみなことは何ですか？

小田 緑・ピンク・赤・紫の色とりどりのオーロラが、うねうねと動いているのを見たときは感動しました。オーロラが出ていないときも、満天の星空は吸い込まれるような美しさです。また、昭和基地の近くでペンギンやアザラシを見ることができますが、極寒のなか出産直後のアザラシの親子が寄り添っている姿に、動物が生き抜いていく力強さを感じました。

楽しみは食事です。寒いところで仕事をした後には、調理隊員が作ってくれる温かくて美味しい食事が何よりの楽しみです。

Q 休みの日はありますか。何をしますか？

小田 休みは冬期間は週2日、夏期間は週1日あります。先日は氷山で流しそめんをしました。晴れてい